

2015.11.12 17:19

## 細胞の力を強める化学物質発見 がん予防薬開発に期待 北海道大など

体内でがん細胞に変化し得る「前がん細胞」を周囲の正常細胞が攻撃、排除する機能を高めてくれる化学物質を北海道大などの研究グループがイヌなどの細胞を使った実験で初めて発見した。がん予防薬の開発につながる可能性がある。12日までに英科学誌電子版に発表した。

北大遺伝子病制御研究所の藤田恭之教授（分子腫瘍学）によると、イヌの培養細胞を人為的に前がん細胞に変化させ、その周囲にある正常細胞に約1万種の抗生物質などを投与し、それぞれ効果を調べていった。

この結果、約1万種のうち抗生物質を改造した化学物質「VC1-8」が正常細胞への副作用が少なく、前がん細胞への攻撃力を高める効果が大きかった。ただ、前がん細胞の全てが排除されたわけではなかったという。

©2015 The Sankei Shimbun &amp; SANKEI DIGITAL All rights reserved.